

## 南さつま市坊津歴史資料センター輝津館

### 輝津館「海洋教育」事業

実施期間：平成30年7月2日（月）～平成31年1月31日（木）



#### 【事業の内容・目的】

- 坊津歴史資料センター輝津館を中心とした「海洋教育」事業として、地域や学校と連携しながら、「海の学び・海洋教育」を実践・発展させることを目的として実施しました。
- 博物館主導での博学連携モデル形成に向けた「海の学び・海洋教育」の実践を目的として実施しました。
- 坊津地域の坊津歴史資料センター輝津館・坊津学園にとどまらない、他地域の他館・他校に及ぶ「海の学び・海洋教育」の実践を目的として実施しました。

## 活動の様子

### 1. 「海の魚」研究室

【開催日時】平成31年1月18日（金）8：45～12：35

【開催場所】南さつま市坊津町内海岸地帯・坊津歴史資料センター輝津館

【参加者数】20人

【活動内容・目的】

- 『南薩摩の魚類図鑑—海辺の魚類・生態ハンドブック—』を手にしなが  
ら坊津の海岸の野外見学を通じて、魚類たちが棲む地元の海の環境に  
ついて学ぶことを目的に実施しました。
- 『南薩摩の魚類図鑑—海辺の魚類・生態ハンドブック—』をテキストに  
用いた南薩摩の魚類に関する講話、ワークシート等を用いた学習活動に  
よって、南薩摩の海辺でみられる魚類の種類や形態的特徴、海辺の環境  
に応じた魚類の生態、魚類を育む海の環境の大切さなどについて学ぶこ  
とを目的に実施しました。
- 『寛海魚譜—東京国立博物館所蔵銅版手彩色本・描かれた鹿児島海洋  
生物—』をテキストに用いた講師による講話を通じて、海洋生物に関す  
る調査研究の歴史について学ぶことを目的に実施しました。



坊津町内海岸地帯



この日は、南さつま市坊津歴史資料センター輝津館と坊津町内海岸地帯での学習活動（授業）を実施し、坊津学園8年生15名と関係者、計20名が参加しました。

授業では、テキストとして使用する『南薩摩の魚類図鑑—海辺の魚類・生態ハンドブック—』を手に、まずフィールドワークとして、バスで坊津町内の各所の海岸地帯を訪れ、講師の岩坪光樹先生（鹿児島水圏生物博物館代表理事）の指導のもと、実際に海岸を見学し、様々な魚類が暮らす坊津の多様な海岸環境について学びました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はできません。



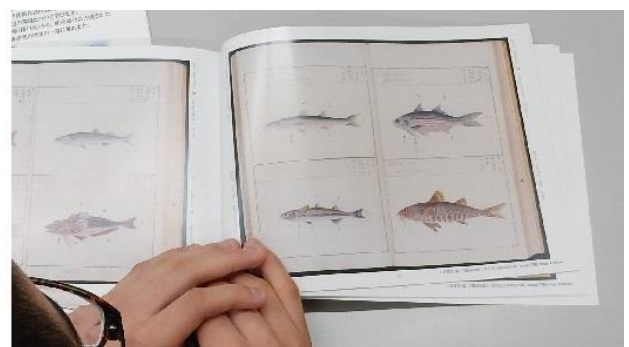
輝津館 多目的利用室



続いて、坊津歴史資料センター輝津館 2 階の多目的利用室に移動し、室内での授業を行いました。輝津館での授業では、魚類パネルなどを使った岩坪先生の講話を聞きながら、『南薩摩の魚類図鑑—海辺の魚類・生態ハンドブック—』やワークシートを用いて、南薩摩の海岸環境として、「漁港」・「岩礁・サンゴ群」・「砂浜」・「マングローブ（汽水域）」・「河口（汽水域）」・「山と海」という 6 つの環境テーマと、それぞれの環境テーマに関係する 14 種の魚類の生態について学びました。



次に、岩坪先生の指導のもと、ワークシートを使って魚類の形態的特徴を記録するなど、一般的には大学生などが学ぶような、魚類の分類方法の学習にもチャレンジしました。授業では、こうした多様な魚類を育む海岸環境の重要性などにも話題が及び、参加した生徒たちは、興味深く講師の話に聴き入っていました。



また、授業の終盤では、『甕海魚譜—東京国立博物館所蔵銅版手彩色本・描かれた鹿児島島の海洋生物—』をテキストとして、坊津歴史資料センター輝津館の担当講師（橋口巨）から、明治時代に作成された魚介類の図譜『甕海魚譜』について学び、海洋生物に関する調査研究の歴史の一端に触れました。

今回の活動は、南薩摩の海に棲む魚類の種類や生態、魚たちが暮らす海の環境、その大切さ、海洋生物に関する調査研究の歴史等について学ぶ良い機会となりました。

（今回の活動は、坊津学園の「坊津学」授業も兼ねて実施されました）



輝津館エントランスホール

後日、輝津館エントランスホールにて、「海の魚研究室」の学習成果展として、子どもたちが今回の活動で記入したワークシートのほか、海岸環境と魚類の生態を解説した魚類パネルなどを展示し、「海の学び」の紹介を行いました。

### 【参加者の声】

- 海の環境について学ぶことができて良かった。
- 海岸の特徴によって、そこに棲む魚の種類が違ってくるのが分かった。
- テキストを見ながら海について学べたことが良かった。
- 海の環境を保つには、山や川も大切にすることが必要だということを感じた。
- あらためて山や海を守っていかなければならないと感じた。

## 活動の様子

### 2. ガラガラ船を学ぼう

【開催日時】平成30年9月20日（木）9：40～12：15

【開催場所】南さつま市坊津歴史資料センター輝津館

【参加者数】26人

【活動内容・目的】

- 「坊津ガラガラ船・唐カラ船保存会」の会員による、坊津ガラガラ船についての講話や、ガラガラ船製作の一部工程を体験するなどの学習を通して、海とともに歩んできた港町「坊津」の歴史・文化について学ぶことを目的として実施しました。
- 「ガラガラ船」をテーマとした学習活動を通して、海にまつわる伝統文化について学ぶことを目的として実施しました。

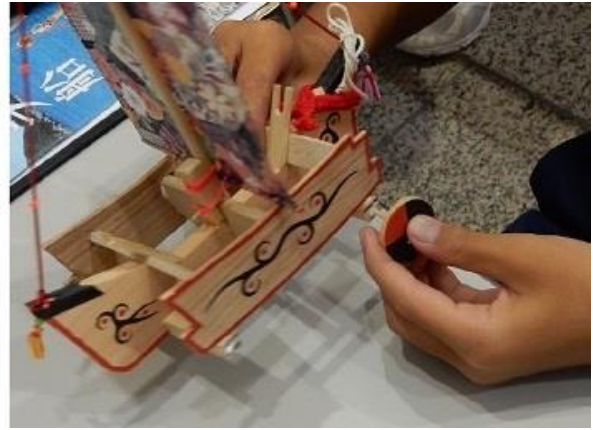


輝津館エントランスホール



この日は、坊津ガラガラ船・唐カラ船保存会の谷川茂洋先生・織田聖先生・大迫美穂先生を講師として、坊津歴史資料センター輝津館のエントランスホールで学習活動（授業）を実施し、坊津学園6年生13名と関係者、計26名が参加しました。

授業では、今回テキストとして使用する「坊津ガラガラ船解説リーフレット」をもとに、まず、坊津ガラガラ船を紹介する谷川茂洋先生の講話があり、港町「坊津」を象徴する船形の郷土玩具「坊津ガラガラ船」の歴史や文化について学びました。



続いて、織田聖先生・大迫美穂先生の指導のもと、ガラガラ船製作の一部工程を体験する活動として、ガラガラ船の組み立てとサイノコづくりにチャレンジしました。参加した子どもたちは、講師のアドバイスを受けながら、ガラガラ船の組み立てとサイノコづくりに、熱心に取り組んでいました。



授業の最後には、このたび新たに製作された大型ガラガラ船（耐可動）の帆網に、子どもたちが大型のサイノコを取り付けました。後日、輝津館エントランスホールにて、「ガラガラ船を学ぼう」の学習成果展として、活動当日の写真を掲載したパネルや大型ガラガラ船（耐可動）とともに、子どもたちが今回の活動で製作したガラガラ船を展示し、「海の学び」の紹介を行いました。また、今回製作された大型ガラガラ船（耐可動）は、今後、地域行事の唐カラ船祭りにおいて活用が予定されています。

今回の活動は、船形の郷土玩具「坊津ガラガラ船」を通して、海とともに歩んできた港町「坊津」の歴史、海にまつわる郷土の文化を学ぶ良い機会になりました。

（今回の活動は、坊津学園の「坊津学」授業も兼ねて実施されました）

## 【参加者の声】

- ガラガラ船の組み立ての体験ができたので良かった。
- 昔から伝わる港町ならではの伝統を学んだ。
- 海は坊津になくてもならないもので、海が無かったらガラガラ船も生まれなかった。
- 自分たちがガラガラ船や海のことを伝えることで、多くの人にその良さを知ってほしいと思った。

## 活動の様子

### 3. 体験！貝塚のひみつ

【開催日時】平成30年12月5日（水）10:00～12:15

【開催場所】阿多貝塚・歴史交流館金峰

【参加者数】42人

【活動内容・目的】

- 阿多貝塚の現地見学をはじめ、貝塚出土遺物の見学、火おこし体験、土器による貝の煮炊き体験などを通し、地域における海産物の利用の歴史や海岸線の変化の歴史について学ぶことを目的として実施しました。
- 「貝塚」をテーマとした学習活動を通し、海にまつわる地域の文化財等について学ぶことを目的として実施しました。



阿多貝塚

この日は、南さつま市金峰町の阿多貝塚と歴史交流館金峰において、坊津歴史資料センター輝津館・埋蔵文化財センター・歴史交流館金峰の3施設共同スタッフによる案内・解説・指導のもと学習活動（授業）を実施し、阿多小学校6年生30名と関係者、計42名が参加しました。

授業では、まずフィールドワーク・遺跡見学として、バスで阿多貝塚を訪れ、スタッフの案内・解説のもと、実際に現地の地形などを見学しながら、縄文時代の人々が食用にしていた海産物、マガキやハマグリなどの貝殻などが、阿多貝塚で出土していることや、縄文時代の海進期には阿多貝塚の近くまで海岸線が迫っていたと考えられていることなど、気候変動等による海岸線の変化の歴史等について学びました。



歴史交流館金峰（屋内）



歴史交流館金峰（屋外）



次に、バスで歴史交流館金峰へ移動し、歴史交流館金峰の館内で、スタッフの解説のもと、阿多貝塚から出土した縄文時代の土器やマガキ・ハマグリの貝殻など、実際の出土品について見学しました。また、スタッフの指導のもと、昔の人々が行っていた発火法の体験も行い、参加した生徒たちは、まいぎり式などの火おこしに、一生懸命チャレンジしていました。続いて、縄文時代の煮炊きを再現した調理実験を行いました。



歴史交流館金峰（屋外）



輝津館エントランスホール

薪を焚き、土器を使用したマガキやハマグリの煮炊き体験に、参加した児童たちは熱心に取り組んでいました。また、海の幸を実際に味わう、ハマグリの試食体験も行いました。後日、輝津館エントランスホールにて、「貝塚のひみつ」の学習成果展として、活動当日の写真を掲載したパネルを展示し、「海の学び」の紹介を行いました。

今回の活動は、「阿多貝塚」という海にまつわる文化財を通して、南さつまにおける海産物の利用の歴史、海岸線の変化の歴史などについて学ぶ良い機会になりました。

（今回の活動は、阿多小学校の社会科授業も兼ねて実施されました）

## 【参加者の声】

- 阿多貝塚の見学や、出土した貝殻や土器の見学、煮炊き体験ができて良かった。
- ハマグリを実際に試食することができて良かった。
- 縄文時代前期には、阿多貝塚の近くまで海だったと考えられていることを知って驚いた。
- 海は昔も今も、食物を得るために大切な場所なのだと感じた。
- もともと海が好きだったが、もっと海が好きになった。海を大切にしていきたい。



## 【事業全体のまとめ】

海水魚の専門家や、坊津ガラガラ船・唐カラ船保存会会員らの講師を招聘し、また市内の文化財・考古関係施設と連携するなど、生物学、歴史学、考古学等の各分野から、地域の海の魚類や海岸環境、海洋生物の調査研究の歴史、海にまつわる地域の歴史と伝統文化、地域における海産物利用の歴史などについて学ぶ機会を提供できた。

また、事業の連携・協力先、学校との協働により、野外学習、実際の魚類や博物館展示品の見学、ガラガラ船の製作体験、火おこし体験、土器を使用した貝の煮炊き（縄文時代の海産物調理）の体験、貝の試食体験など、参加者の記憶に残る体験型の授業を実施できた。その結果、地域の海でみられる魚類の特徴・生態、これらの魚類が棲む地域の海岸環境の特徴やその大切さを学ぶとともに、海洋生物に関する調査研究の歴史の一端にふれた。また、坊津の郷土玩具「ガラガラ船」を通して、海にまつわる地域の歴史・伝統文化について学び、さらに地域の史跡「阿多貝塚」を通して、海産物利用の歴史、海岸線の変化の歴史、海にまつわる地域の文化財について学ぶなど、多様な切り口から地域資源を活用した地域ならではの「海の学び」を実施することが出来た。

さらに、今回の事業では、地元坊津地域に所在する坊津学園に加え、新たな連携先として市内金峰地域に所在する阿多小学校の児童を対象とした活動を実施し、昨年度の金峰中学校との連携に続いて、市内他地域・他学校への海の学びの普及・拡散を目指す取り組みをさらに前進させることができた。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 南さつま市立坊津学園	博学連携による地域の海を学ぶ授業実施
2. 南さつま市立金峰中学校	博学連携による地域の海を学ぶ授業実施
3. 岩坪光樹（鹿児島水圏生物博物館）	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり
4. 谷川茂洋・織田聖・大迫美穂 （坊津ガラガラ船・唐カラ船保存会）	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり
5. 南さつま市埋蔵文化財センター・歴史交流館金峰（南さつま市教育委員会生涯学習課文化係）	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり
6. 食堂「勝八」	連携した事業実施による内容の深まりと分野の広がり

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. KKB鹿児島放送	ニュース番組「スーパーJチャンネル」 平成30年9月20日
2. 読売新聞（朝刊）	「児童が郷土玩具ガラガラ船作り」 平成30年9月21日
3. 南日本新聞（朝刊）	「坊津学園6年生 ガラガラ船作り」 平成30年9月23日
4. NHK 鹿児島	ニュース番組「情報WAVE かがしま：あすの動き」 平成30年12月4日
5. 南日本新聞（朝刊）	「阿多貝塚の歴史 地元児童触れる」 平成30年12月12日